

平成22年度 第1回津山市立図書館協議会【議事概要報告】

日 時 平成22年8月6日(金)午後2時～4時

場 所 津山市立図書館 集会室

出 席 石井委員 井上委員 内海委員 小椋委員 志水委員 高柳委員
檜本委員 西尾委員 平田委員 古沢委員 松浦委員

欠 席 武川委員 長谷川委員 新田委員 宮本委員

(委員長 副委員長) 五十音順(敬称略)

事務局 津山市立図書館(西山地域振興部長、飯田生涯学習課長、林田図書館長、武下副館長、菊入主査)

1 開会

過半数以上の委員出席により当協議会は成立することを事務局より告知し、開会。

2 挨拶

西山地域振興部長挨拶(略)

3 任命状交付

西山地域振興部長より出席委員全員に任命状を交付。

4 委員紹介

出席委員及び事務局職員紹介

5 委員長・副委員長の選出

事務局より、出席委員に委員長、副委員長の選出をお願いしたところ、事務局案の提示を求められ、委員長に石井委員、副委員長に小椋委員の案を提示、出席委員全員了承された。

(以後議事進行については委員長対応)

6 議事

- (1) 平成21年度津山市立図書館及び津山市視聴覚ライブラリー利用状況報告
- (2) 平成22年度津山市立図書館主要事業計画
- (3) 津山市視聴覚ライブラリー担当委員の選出について
- (4) その他

(1) 平成 2 1 年度津山市立図書館及び津山市視聴覚ライブラリー利用状況報告

・平成 2 1 年度津山市立図書館利用状況について 事務局報告(資料)

・視聴覚ライブラリー利用状況について 事務局報告(資料)

館長 図書館の入館者数と貸出冊数が前年比より減っているが、これはリニューアル準備のために 1 3 日間休館したことと新型インフルエンザによる外出控えの影響と思われる。自動車文庫は稼働日数を増やした。各種イベントも回数を増やし、参加人数も増えている。

視聴覚ライブラリーでは、液晶プロジェクターを買い替え、多く利用していただいている。またビデオから DVD への移行を行っているところである。

参考資料として平成 2 2 年 3 月に導入した自動貸出機の利用率を載せているが、当初目標としていた 7 0 % を概ね保持している。

委員 配本所と団体貸出の説明をお願いしたい。

館長 小・中学校では 7 割が利用されているが、幼稚園・保育園についてはまだ利用が少ない。図書館からの情報提供が不足している。今後の利用促進を図っていききたい。

委員 H 2 0 年度対比で入館者が 1 割減っている。昨年は 8 % ほど増えていたと記憶している。何か対策は講じるのか。

館長 昨年は、臨時休館やインフルエンザなどの影響があった。対策については、今年度フルオープン状況を見据えて考えたい。電子書籍やインターネット環境が普及してきていることなどの影響も考えられる。レファレンスや読書案内も H 2 0 年度比 8 6 % と落ち込んでいるのもこのあたりの影響があるのではと推察している。

委員 昨年まで講座などで順調に入館者を伸ばしていたが、利用者も慣れてきたのではないか。

IT などの環境は、子どもには悪い影響も大きい。そこをカバーしていくのも生涯学習施設としての務めではないか。

委員 以前の協議会の中で、いずれは紙媒体がなくなるのではないかという議論がされたことがあったが、いまの子どもたちは思った以上に本を読んでいる。

館長 音読大会などでは参加者も大勢集まるので、子どもの世界ではまだまだ本が身近なところにある。

委員 小・中学校ではケータイ小説がブームになっている。学校図書館では基本的には買わない。図書館は人がいて資料があって利用がある。機械と資料だけがあっても、それをつなぐ人がいないと利用が増えるのは難しい。公共図書館では多様なサービスも求められる。津山市立図書館はどのような方向に行くのか。

館長 生涯学習というものは長いスパンで考える必要がある。職員の数も限られているので、今後はボランティアや市民の方との協働体制が必要になってくると考えて

いる。

(2) 平成 2 2 年度津山市立図書館主要事業計画

・平成 2 2 年度津山市立図書館主要事業計画について 事務局報告(資料)

館長 (1) 子育て支援拠点の充実 今年度子育て支援コーナーにUVカットフィルム
の貼付による紫外線の抑止 電子看板の設置によりイベント情報・子育て
情報を発信し利用を促進する コミュニケーションロボット(NEC)によるイ
ベント ミニ子育て支援コーナーを出張で行い、読み聞かせを行う 子育て支援
講演会を年 5 回開催する。

(2) 学校図書館との連携では、こちらから出向いて行って支援を促進したいと
考えている。また将来的には当館と学校図書館のシステムをリンクさせて学校で
も市立図書館の資料を検索予約できるようにインフラを整備したい。モニター校
を設置して運用の検討を行う。

(3) 自動車文庫サービスエリアの拡大では、平成 2 1 年 9 月に自動車文庫の買
い替えに伴ってサービスエリアを拡大するために、未巡回小学校などに案内を行
っているが、立地条件などが合わず巡回が難しい小学校もある。その場合は配本
所貸出など代替えのサービスを行っていく。私立幼稚園は不定期に巡回を行っ
ている。公立幼稚園には図書館でできるサービスメニューの一覧などを配布して利
用促進を図っていく。

(4) 図書館システムの有効活用では、平成 2 2 年 3 月にICタグシステムを導入
したが、今後安定稼働を図りながらバージョンアップを進めていきたい。WEB
オンライン化により自動車文庫でも本館と同じサービスができるようになった。
WEB予約についてもオンラインでできるようになっている。

(5) 幅広い知識・情報の提供では、役に立つ図書館、生涯学習を支える図書館
として多様な学習活動を支えるような活動を推進していく。また単独では限界が
あるので他部署とも積極的に連携して新たな事業展開を図る。その中で津山中央
病院とも相互協力協定の話が進んでおり、10月には協定を締結する予定となっ
ている。津山中央病院は医療情報プラザという図書機能を持った施設があり、専
門の司書も配置している。市内には他に病院も多数あるが、このような病院施設
は津山中央病院だけであるため、今回の相互協力の話ができた。

委員 新たなサービスとして入院患者サービスを展開することには感動した。

委員 昨年の協議会で議題となった図書館協議会委員の定数削減についてだが、館長や
部長の尽力により、今回は定数 15 名でいけることとなった。

委員 自動車文庫についてだが、小学校で巡回していない 5 校については立地条件が合
わないということだが、説明してほしい。

館長 立地条件でいうと、進入路や敷地が狭く自動車文庫が入れないなど安全面での問

題や、資料の管理体制が難しいという学校の考え方もあり、図書館から無理に進めることはできない。

委員 当保育所では地区館の図書館司書の方に週一回読みきかせをお願いして、大変喜ばれている。自動車文庫に行くとなると色々難しい問題もあると思うので、このような形と合わせて、団体貸出も試してみてもどうか。

委員 公立幼稚園の話はでたが、保育園への自動車文庫の巡回はどのようにしていくのか。

館長 保育園は数も多く、すべてを同時にすることは難しい。まずは公立の保育園への働きかけを考えている。

委員 公民館には何館くらい自動車文庫が巡回しているのか。

館長 現在3館に巡回している。

委員 もし、すべての公民館から要望があれば、巡回することは可能なのか。

館長 自動車文庫は、図書館遠隔地へのサービスと考えている。公民館の近くの小学校に巡回している地域もあり、地理的・時間的な問題もある。検討はするがすべてを巡回することはできないと思われる。また今後は未就学児や老健施設を中心に自動車文庫の拡大を図ることを検討している。

委員 要望があれば職員だけが対応するのではなく、地元にもボランティアで協力を求めてどうか。チラシを貼るなど。

館長 自動車文庫については、3名で巡回していたところを2名にするなど、ぎりぎりの状態でやっている。地元との協働ができるならお願いしたい。

委員 システムの変更をしたが、評判はどうか。自動貸出機などは子どもたちが思った以上に喜んで使っているようだが、返却箱はなじまないのではないのか。

館長 ICタグシステムの導入により職員3名が削減となり、厳しい運営となっている。貸出返却については利用者の反応は千差万別だが、以前から利用されている利用者の方には冷たく感じられたという話も聞いている。職員の接客の問題もあると思うので、サービスの向上に取り組みたい。委員の方にもその都度ご指摘いただければと思う。返却箱については、時間がない方には喜んでいただいていると思う。サービスデスクに人手をさくことは、外部への事業展開もあるので厳しい面もある。

委員 借りたものは「ありがとうございました」と言って返すというのは人間育成にもなっていて、それがなくなるのは残念な気がする。

委員 本を返すときに利用者となんか話をするのは司書にとっても非常に役に立つ機会ではないか。会話がなくなっており、自分たちの年代にとってはなじめない。ただ、若い人の中にはそれを好む人もあり、色々な選択肢があることは悪いことではない。箱に書いてある言葉を変更してはどうか。

委員 機械化する中で返却の時に話をするのは無理ではないか。また別の場所で話をす

ればよいのではないか。

館長 返却箱案内表示については、表現方法を工夫したい。また、フロアワークなどを推進し、利用者とのコミュニケーションの機会を確保したい。

委員 サービスデスクには2人ほどしかおらず、忙しそうに横を向いているので話しかけづらい。子どものコーナーなどでは職員が回ってみられる体制にしたほうがよいのではないか。子育てコーナーもできている。保護者とも話ができる環境が必要ではないか。

館長 アンケート用紙は常設しているが、あらためて利用者の生の声を聞いていきたい。

委員 自分の職場研修ではビデオで職員の対応を撮影し、自分を知ろうという取り組みをしている。自分は笑顔のつもりでいても、苦虫をつぶしたような顔をしていることもあり、気がつくこともある。

館長 今年も職員研修で接客研修を行うので、講師と話をして実現していきたい。

委員 セキュリティゲートを導入したときに、不正に持ち出される資料があると聞いたが、改善はされたのか。

館長 年間約120万円の資料が不明となっていた。それについては9月末からの蔵書点検により改善されたかが明らかになる。他の図書館では劇的に改善されたという事例もある。

委員 民営化についてはどうなったか説明をしてほしい。

館長 平成20年10月に津山市立図書館管理運営検討委員会を立ち上げ、平成21年3月に答申書を教育委員会へ提出した。その中で、当分のあいだ指定管理制度は導入しないということになっている。今年宮地市長に変わり事業仕分けを行うことになっていて、秋ごろから審議されることになる。図書館では自ら事業仕分けに手を挙げることはしておらず、西山部長も図書館は直営でという考えをもっている。しかし、これで大丈夫だと安心はできないので気を引き締めて業務を推進していきたい。

(3) 津山市視聴覚ライブラリー担当委員の選出について

副館長 宮本氏、西尾氏、平田氏の3名にお願いしたい。

全員 同意

委員 初めての委員もいるので、視聴覚ライブラリー委員の説明をしてもらいたい。

館長 今年度購入できる範囲内で一般・小中学校・幼稚園保育園と分けて図書館から購入予定候補資料をご提案する。その資料をご検討していただき、意見を参考に予算の範囲内で購入資料を確定する。委員の皆様には資料をこちらから送付するので、その資料を見てご意見をいただきたい。

委員 以前にあった美作視聴覚ライブラリーはどうなったのか。

館長 現在は廃止され、それぞれ加盟していた市町村に振り分けられた。津山市ライブ

ラリー資料の中でもわかるようにしている。今でもその資料についてのみ元加盟市町村が利用できるようになっている。

(4) その他

館長 放送大学についての資料を添付しているが、現在津山市立図書館では放送大学津山教室の受入について検討を行っている。放送大学岡山学習センターの資料を添付しているので、ご覧いただきたい。

現在県北には70名ほどの在校生がいるが、教材を岡山大学まで取りに行き返却されているという状況がある。新見短期大学では放送大学を昨年10月に開校し、現在8名の在籍者で年間200件の利用があると聞いている。放送大学では司書・看護師などの資格の一部がとれ、学校の先生の利用も多いと聞いている。現在平成23年10月の開校を目指して交渉しているところである。

館長 この協議会の内容は図書館ホームページにおいて議事録概要と委員名簿が公開されることになっている。また同じものを協議会委員のご自宅にも送付する。

7 閉会

挨拶(略)

(午後4時閉会)